

第21回 モルック世界大会 in フィンランド 報告書

2026

2026年8月31日

一般社団法人 日本モルック協会

代表理事 ハツ賀秀一



1 はじめに

2026年8月14日から16日、第21回モルック世界大会がフィンランド・ヘルシンキのカピュラ運動公園（Käpylän liikuntapuisto）で開催されました。主催は地元クラブのTerassimölkky ry。モルック発祥の地フィンランドでの開催は3年周期の原則に沿ったもので、首都ヘルシンキでの開催は今回が初めてです。主催者は大会の歓迎文で、「規模のためではなく、できるだけ多くの人に競技としてのモルックを知ってほしい」と大会開催への思いを記しています。

大会は定員512チームという過去最大級の規模で行われ、最終順位には本戦（Aトーナメント）256チーム、Aptus Cup（Bトーナメント）223チームの計479チームが掲載されています。日本からは63チームが登録され、海外勢としては最大の選手団となりました。会場には128面の競技コートが設けられ、20を超える国・地域から選手が集まりました。

本戦は4人チームを基本とし、最大6名まで登録してセットごとに交代できる方式。グループステージでは2セットマッチを行い、各グループの1～4位がAトーナメント、5～8位がAptus Cupへ進出します。Aトーナメントはベストオブ5、決勝のみベストオブ7、Aptus Cupはベストオブ3で争われました。

また、各国の代表チームによる国別対抗戦（Nations Cup）が大会初日に行われ、日本代表「木魂ジャパン」（熊崎隆介、佐野駿平、中村太星）も出場。日本は最終的に5位となり、世界の強豪を相手に健闘しました。

大会の公式配信はYle Areenaおよび主催者のYouTubeで行われ、試合結果はMolkkifyを通じてリアルタイムで公開されました。日本モルック協会も公式YouTubeでミラー配信を行い、日本から大会を見守るファンに現地の熱戦を届けました。

本報告書では、大会のハイライト、日本チームの成果、国際交流の様子をまとめます。



大会初日は9時から開会式、10時からグループステージが行われました。128面のコートに世界各国のユニフォームが並び、会場は朝から国際大会らしい熱気に包まれました。

ヘルシンキは晩夏らしい涼しさで、主催者からも日照と雨の両方に備えるよう案内がありました。試合の合間には、対戦相手との握手や記念撮影、グッズ交換などが自然に生まれ、日本チームが対戦相手に折り紙の手裏剣を贈ったり、ユニフォームを交換したりする姿も見られました。競技だけでなく、こうした交流も大会の大きな魅力となっていました。

会場となったカピュラ運動公園はヘルシンキ市内の公共スポーツ施設で、競技エリアと飲食・アルコール提供エリアを区分するなど、大規模大会に対応した運営が行われていました。各チームにはTacticテントで公式記念投擲棒が1本配布されました。

午後から行われた国別対抗戦では、木魂ジャパンがグループステージを勝ち上がり、ポーランド、ギリシャなどに勝利。決勝トーナメントでは準々決勝でドイツに1-2で敗れ、最終順位は5位となりました。惜しくも表彰台には届きませんでしたが、開催国フィンランドをはじめとする強豪国と互角に渡り合い、日本の代表選手の競技力を示す結果となりました。

夜にはMall of Tripla内のBierhaus Berlinで公式アフターパーティーが開催され、参加者同士が競技の枠を越えて交流を深めました。



木魂ジャパンの3名

左から 中村選手、佐野選手、熊崎選手



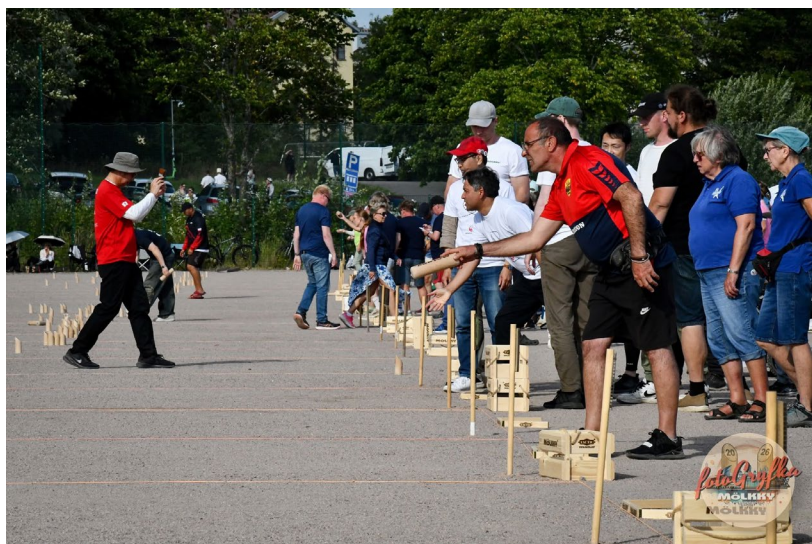
国別対抗戦 表彰式

土曜日はグループステージの残りの試合が行われ、その後、Aptus Cupおよび本戦の決勝トーナメントが開始されました。

しかしこの日、試合結果を集計するシステムに不具合が生じ、およそ2時間の遅延が発生しました。主催者は手集計とシステム復旧を並行して進めましたが、一部の試合は日曜日へ持ち越され、予定されていた映画『First to Fifty』の会場上映も中止となりました。

大規模大会ならではの運営上の課題が表面化した一日でしたが、主催者、審判、ボランティア、選手・観客の協力によって競技は継続されました。日本から配信を見守ったファンからも、長時間にわたり選手たちへの応援が寄せられました。

この日も日本から多数のチームが決勝トーナメントへ進出し、コートサイドでは日本チーム同士が声を掛け合い、互いの健闘を称える姿が見られました。在フィンランド日本国大使館チームやJALヘルシンキ支店チームも出場し、日本から訪れた選手たちとの交流を深めました。



最終日は、前日から持ち越された試合を含む決勝トーナメントが朝から行われました。前日の遅延の影響もあり進行は予定より押しましたが、最終盤まで熱戦が続きました。

本戦では準決勝を勝ち上がったMOON PRISM POWERとPHOENIXXXによる日本勢同士の決勝が実現しました。世界大会の決勝が日本チーム同士となるのは大会史上初めてです。

3位決定戦では、オーストラリアのFINSKAROOS KULTAがフィンランドのSORSAN METSÄSTÄJÄTを破って3位となりました。本戦の上位4チームは、日本2チーム、オーストラリア1チーム、フィンランド1チームとなり、モルックが発祥の地から世界へ広がっていることを象徴する結果となりました。

決勝はベストオブ7で行われ、接戦の末、MOON PRISM POWERが勝利。世界一の栄冠を手に入れました。6名登録の交代制を生かし、互いをカバーしながら戦うチームプレーが光りました。メンバーの一人は2024年函館大会でも日本勢として優勝を経験しており、世界大会2度の優勝は、日本・アジアのモルック界において特筆すべき記録です。

準優勝のPHOENIXXXは、結成から間もないチームながら決勝まで勝ち上がり、世界最高峰の舞台で日本勢同士の決勝を実現しました。ティーンエイジの選手が大舞台でプレーする姿は、年齢を問わず同じフィールドで競えるモルックの魅力を象徴するものでした。

日本勢はさらに、ALLIN VALKOINENが6位、KAWANISHIが10位、FIELD TRIPが13位、IGOGUNDAN ANOTHER SKYが15位、ANKKA ROS ON TTが17位、HARU-1-BANG OF KAMELIASCが18位など、上位に多数のチームが入りました。

Aptus Cupでは、スロバキアのPAMPÚCHが優勝、ドイツのTHE DYNAMIC RATSが準優勝、日本のKUWANA MOLKKYが3位となりました。また、CITA MOLKKY LOVERSも7位に入りました。



5

本戦・関連競技の主な結果

本戦（Aトーナメント）

順位	チーム	国・地域
1	MOON PRISM POWER	日本
2	PHOENIXXX	日本
3	FINSKAROOS KULTA	オーストラリア
4	SORSAN METSÄSTÄJÄT	フィンランド
5	TEAM KAUBI/SAAREMAA	エストニア
6	ALLIN VALKOINEN	日本
7	LES COLIN & DCP	フランス
8	TEAM LOKKI	フィンランド

Aptus Cup（Bトーナメント）

順位	チーム	国・地域
1	PAMPÚCH	スロバキア
2	THE DYNAMIC RATS	ドイツ
3	KUWANA MOLKKY	日本

国別対抗戦（Nations Cup）

順位	国
1	スイス
2	フィンランド
3	ドイツ
5	日本（木魂ジャパン：熊崎隆介、佐野駿平、中村太星）

木魂ジャパンは熊崎隆介、佐野駿平、中村太星の3名で出場し、最終順位5位となりました。

※本戦およびAptus Cupの順位・メンバー表記は大会主催者による公式結果に基づきます。国別対抗戦の順位については、大会期間中の発表等をもとに記載しています。

6

日本選手団の意義と、
協会としての所感

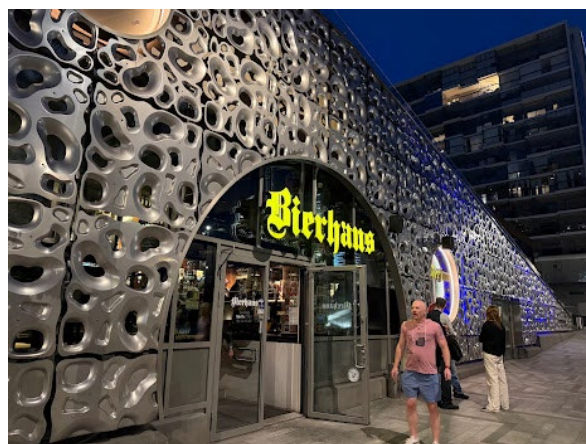
今大会の日本勢は、参加規模にとどまらず、頂点と選手層の双方を示す結果となりました。本戦1位・2位・6位、Aptus Cup 3位、国別対抗戦5位。世界大会の決勝を日本勢が占めたことは、2024年函館大会での優勝から2年での大きな到達点です。

発祥の地ヘルシンキでその光景が実現したのは、国内の普及、クラブ活動、大会運営、選手一人ひとりの積み重ねによるものと考えます。一方、国別対抗戦では初優勝には届きませんでした。スイス、フィンランド、ドイツなどとの差は依然としてあり、個人の競技力に加え、代表としての連携と国際舞台での勝負強さが課題として残りました。木魂ジャパンの健闘に敬意を表するとともに、次年度スイス大会に向けた代表選考と強化のあり方を、協会として検討してまいります。

運営面では、土曜の集計システム不具合と約2時間の遅延が大きな試練となりました。映画上映の中止、一部試合の日曜持ち越しが生じましたが、主催の手集計と復旧、審判・ボランティアの対応により決勝まで運び切りました。約480チームを128面のコートで運用し、都市部の公共スポーツ施設で大会を成立させた点は、今後の大型大会を考えるうえでも参考になります。

対戦前後の挨拶、記念品やユニフォームの交換、日本からの配信応援など、勝敗を超えてつながる場面も数多く見られました。この魅力は昨年のポーランド大会に続き、今大会でも一貫して感じられた価値です。

主催のTerassimölkkö ry、国際モルック機構（IMO）、ボランティア、審判、配信関係者、協賛・パートナー、全参加選手、そして遠征を支えたご家族、職場、スポンサー、各地域のクラブ・団体、応援くださった皆さまに心より感謝いたします。



第21回モルック世界大会は、日本チームが頂点を制するとともに、世界各国から約480チームが集い、競技の広がりを出す大会となりました。発祥の地で日本の2チームが世界一を争ったことは、各地で競技を支えてきた皆さまの歩みが、一つの形となって表れたものでもあります。

来年の開催地はスイスです。協会は国別対抗戦でのさらなる躍進と、より多くの日本選手が世界のコートに立てるよう、国内大会の充実、選手派遣の支援、正確な情報発信に取り組みます。将来的な日本開催についても関心が高まっていますが、性急に結論を急がず、コミュニティ全体の合意と国際機関との対話を大切に検討してまいります。

この経験を次の世代へつなぎ、モルックが国境を越えた友情と理解を育むスポーツであり続けることを願います。



第21回モルック世界大会
in フィンランド

JMAスタッフ

ハツ賀秀一
ハツ賀千穂
鈴木祐介

一般社団法人日本モルック協会

さいたま市南区神明1丁目4番15号

<https://molkky.jp>

https://twitter.com/Molkky_Japan

<https://www.facebook.com/japanmolkky>

<https://www.youtube.com/@JapanMolkky>
Association

後援・パートナー

後援



フィンランド政府観光局

トップパートナー



© '25 SANRIO 著作 (株)サンリオ

株式会社サンリオ



富国生命保険相互会社

プレミアパートナー



丸進運輸株式会社



TIMEX

ゴールドパートナー



株式会社レプス



OHS サプライ合同会社



株式会社Another works



株式会社 CPEDemarc

サポートパートナー



株式会社ビームス



クリアル株式会社



オークラ輸送機株式会社



KARHU (株式会社シードコーポレーション)

カルチャーアライアンスパートナー



フィンエアー